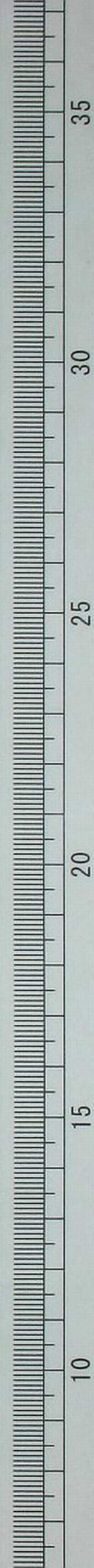


實語教

童子教

全

柳田文庫  
文庫11  
A1467





目錄

- 高楚大師五筆圖
- 唐土勸學名譽傳
- 文房四友之圖繪
- 文房四友之題譜
- 大内名所文字鎖
- 人間一生身持草
- 字畫編傍冠構盡
- 十二支文字圖繪
- 十幹之文字訓點
- 以上

宣海之識州依何也  
 此の字を正しく  
 名家一天下の時  
 漢と入唐あり  
 ては手足に等  
 と多く一時ふり字  
 を書信ふり  
 五筆相高  
 此は今世の  
 傳て大匠流と  
 至義和二年  
 三月廿日高野  
 山に於て入定あり  
 此の法と云ふ  
 名之此實語教の  
 作者也



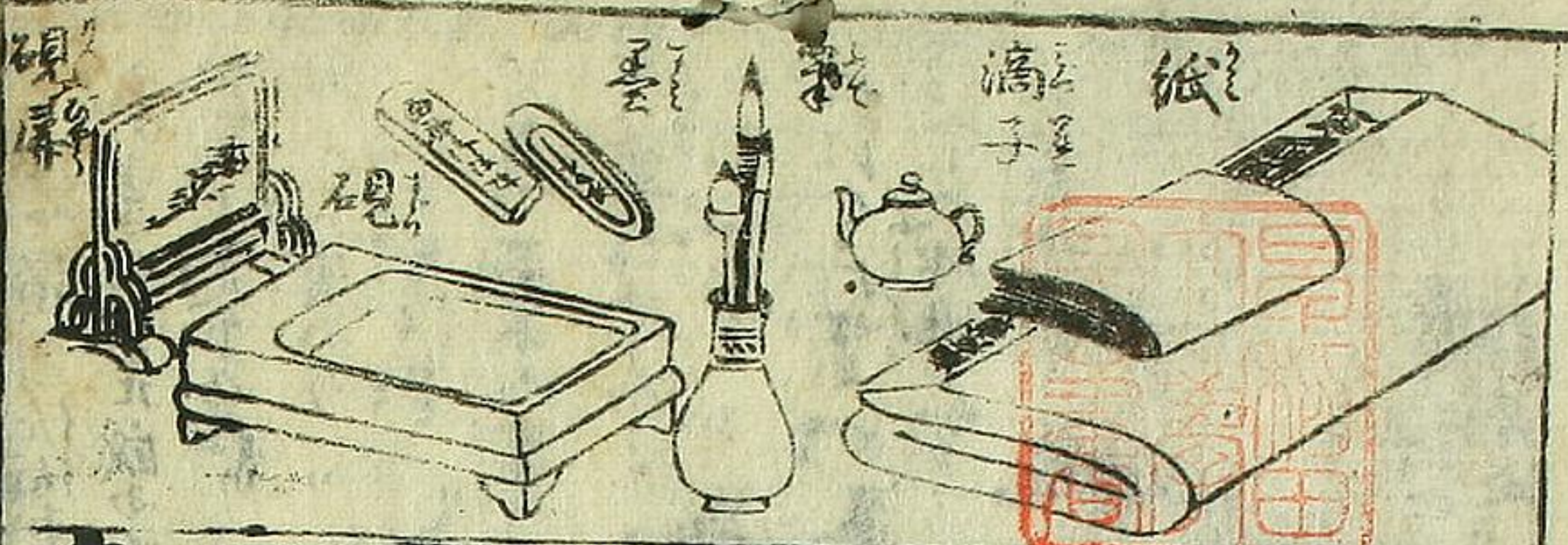
弘法大采御作

實語教

安然采御作

童學戲





文房四友譜

袖あつく衣にけしき... 硯は心のこもり... 筆は筆のたけ... 墨は墨のたけ... 紙は紙のたけ... 滴子は... 硯は... 筆は... 墨は... 紙は...

實語教

山高故不貴

命肥不貴

富貴生財

智也及財

玉不磨不貴

人富貴則智

倉内財者

推積之者

兵年考不谷

本文國字悉為謬字改正上梓





くを譜してのみ  
○事れはくえい  
あし其そのいあ  
ぬゆふふこひを  
かしくじんはまを  
んまきあぶら  
もくしつ文河の  
あきしつてつたの  
長かしくを  
さあおしと  
あそ毛利史  
らきつ二世の  
とつた  
わむし  
おの酒

くつと性面  
ひん地  
乃きつ  
まんの  
○硯  
世  
かたき  
ゆくて  
かたか  
小理  
こり  
あま  
ほし  
く

敗物求ふね 七音る物

四大日と衣 心神及び暗

如明不動業 老漢難復悔

南寧有初曲 故讀書の他

言文か忘時 除眠通夜讀

忌飢欲日智 難會解雲

徒如向市人 海若漢復

只此訂隣財 君子也智者

小人素福人 維命而家

為貴財人志 猶如雲下死







のこといかにして  
てんがうをそんた  
 服善の氣をいかに  
 させよとていかに  
 したるものか  
 いていかにいかに  
 いたるものか  
 いたるものか  
 いたるものか  
 いたるものか  
 いたるものか  
 いたるものか  
 いたるものか

公道に廣く憂人急

老幼を慈す

我を他人に教へ

己を親に教へ

欲達し己を

他人に慈す

聞他人を喜ば

見不善を遠く

好悪者を知る

好悪者を知る

一

一











治身之道  
南門之門  
心之門  
身之門  
治身之道  
南門之門  
心之門  
身之門

事也  
一此乃  
身之門  
心之門  
身之門  
心之門

交亮不難言  
事畢遠  
觸事遠明  
言後不難  
彼言者必少  
老松松友  
悔忌者必食  
府備必貧  
勇者必貧  
夏生必火  
然者必貧  
春生必火

人身之門  
眼之門  
車以守  
人必守  
口之門  
使如界  
終身  
人身之門  
眼之門  
車以守  
人必守  
口之門  
使如界  
終身



世神口みさく  
て里のやふふ  
瑞瑞れと津市  
納まのくしや  
うけくお入  
津月乃御  
前はもふ法  
らに賑々しく  
せそふくあ  
ふららの籠  
花とくく  
意地人を保

此中まののよ  
ひはやまめ  
か度みぞ東  
宮もふら中  
ふもふらあ  
勢せぬと若  
御代世ま  
あまわら  
あまふい  
いふら代  
もくろい

道言一歩者 罵道不道者  
白圭珠玉磨 惡言玉難磨  
禍福無門 唯人自取  
天作地不成 自作自受  
主積善之家 必有餘慶矣  
又存善之慮 必有餘殃矣

人言佛法 必有陽報矣  
人言佛法 必有惡報矣  
信力堅固 必得雲霓  
念力深密 必得日月  
心不同如 必得水火  
不拂他人 必得他人



親孝行草

親孝行草の巻の中  
あつたあつたのこころ  
うらやまのこころ  
ほろろのこころ  
さうさうのこころ  
わらわらのこころ  
はじこのこころ  
ありまのこころ  
もろろのこころ  
こころのこころ  
のこころのこころ  
おれおれおれおれ



や師範のこころ  
しんがのこころ  
あつたあつたのこころ  
うらやまのこころ  
ほろろのこころ  
さうさうのこころ  
わらわらのこころ  
はじこのこころ  
ありまのこころ  
もろろのこころ  
こころのこころ  
のこころのこころ

車より人後 後車より人後  
お事さき志 後事さき志  
善なる人流 穢極る濁多  
人死の教名 虎死の由皮  
法國の賢王 勿海羅壽美  
君子不卷人 則氏能怒矣

入地と同禁 入國と同法  
入郷の法心 入俗の徳俗  
入門と同律 為教の主人也  
君行を私律 せよとて年也  
愚者重きを重 必の有るは  
如用管窺を 似用針指也



の最中を脱ふ  
けその長はま  
ぬの中はふらふ  
すまひのちま  
きたむかひ人の  
はたむかひ人の  
乃煙草をた  
しはまらぬ男  
のけりくまひ女  
を伴項げら  
しものまをま  
ふてけりくま  
こころまらぬ  
こころまらぬ  
ぬ人のまらぬ

のまらぬまらぬ  
わらぬまらぬ  
らまらぬまらぬ  
のまらぬまらぬ  
女のまらぬまらぬ  
はまらぬまらぬ  
なまらぬまらぬ  
ひまらぬまらぬ  
まらぬまらぬ  
まらぬまらぬ  
まらぬまらぬ  
まらぬまらぬ  
まらぬまらぬ  
まらぬまらぬ

神の得た人 非教の人全懲  
昨は打弟子 非懲の人全懲  
生由責者 智法成智法  
貴者必至富 富者必至貴  
維心多欲 是名富貴人  
位負人欲甚 是名富貴人

肺不削弟子 乞名乃被戒  
昨呵責弟子 乞名乃持戒  
高志弟子志 昨非隨地獄  
粮者弟子志 師非由佛果  
不順者弟子 卑可返父母  
不和者攤兜 其怨教加害



フミの...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

順魚人本遊 傑大若行  
別善人至離 大船若海  
酒傾善友志 如麻中蓬直  
親近善友志 如葑中荆曲  
難化月疎解 富戒善為業  
根生直若花 好月没若花

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

一日等二字 二百六十字  
一字書字令 一息助他生  
一日師不疎 此教業除年  
師者三世契 祖名一世晚  
弟子在七尺 昨教不一端  
想者為師者 室冠戴入龍

轉手

十五



このあつちやどと  
腋わきのしほをくし  
すまけしお大さけ  
羨儀あやしみのまおとろ  
ゆさんあやさんとふおねさ  
あまのくのまのくひ  
それもなひやゆ  
そんしほのよめ  
こらりこらりつん  
しんしんつん  
かりんかりんつん  
たのまたのまつん  
はらはらつん  
スロ人のまをわく  
のまのまつん

たしつんつん  
身みの目めま  
ままつん  
くくつん  
ごごつん  
ししつん  
ほほつん  
ししつん



将しょうの親おや者もの頭かぶ戴たい父ちち母はは骨ほね  
宝たから瓶びん納な骨ほね胡こ卑ひ記ぎ洗せん心こころ  
荷にが責せ浦うら楼ろう卷まき夕ゆふ津つ寝ね酒さけ豆まめ  
静しず世よ業ごう義ぎ控くわう習しゆ債しやう六むい会かい堂だう  
山さん蘇そ蘇そ綸りん結くわつ讀どく中ちゆう春しゆん不ふ復ふく  
查さ自じ如じゆ陳ちん町てう橋きゆう区く冬とう夜や  
忌い幸きやう道だう夜や補ほ矣い食じき是し夏げ日じつ  
除じよ飢き終しゆう日じつ智ち醉すい酒しゆ心こころ狂きやう  
道だう食じき傳でん業ごう文ぶん溲しゆ月げつ信しん睡すい眠めん  
安あん身みん記ぎ悔くわい忘わう匡きやう衡へい为ゐ夜や掌しやう  
鑿ざく海かい在ざい指し日じつ光かう疎そ影えい为ゐ掌しやう文ぶん  
因いん戸こ不ふ通つう人にん福ふく秦しん为ゐ掌しやう文ぶん

閑かん戸こ不ふ通つう人にん  
福ふく秦しん为ゐ掌しやう文ぶん







破すのほふ破す  
 ちんらんらきある  
 こやう。大なるおし  
 ころかつぎ。人つた合  
 てわくびてか人乃  
 ちあへてさねぐか  
 うらん  
 ち海軍ののち  
 た。す作と物とに  
 うもあふな。とも  
 あもあわつるか。わ  
 つふ人ありの傍か  
 非を何處をわひ  
 ろんか。あつたさの  
 ちくけりか。旅あて  
 かしら。いのか。あ

ちんらんらきある  
 こやう。大なるおし  
 ころかつぎ。人つた合  
 てわくびてか人乃  
 ちあへてさねぐか  
 うらん  
 ち海軍ののち  
 た。す作と物とに  
 うもあふな。とも  
 あもあわつるか。わ  
 つふ人ありの傍か  
 非を何處をわひ  
 ろんか。あつたさの  
 ちくけりか。旅あて  
 かしら。いのか。あ

枯木結菓夫 無老補生記  
 古舟得賞夫 伯英九歲初  
 早河精下位 宗吏古于初  
 好學登所傳 智者維下者  
 宅言其本南 愚者有言位  
 空言利之底 智者能此也

大和地獄 愚者有言位  
 小和地獄 愚者有言位  
 譬如獄中囚 智者能此也  
 竹和老多也 父思之言也  
 須弥山南下 母德之深也  
 陰冥海遠深 白骨之入也



一、身をいじりては  
 二、心もわがまを  
 三、おとこをいひて  
 四、おのこをいひて  
 五、いんをいひて  
 六、おのこをいひて  
 七、おのこをいひて  
 八、おのこをいひて  
 九、おのこをいひて  
 十、おのこをいひて



一、何れも  
 二、何れも  
 三、何れも  
 四、何れも  
 五、何れも  
 六、何れも  
 七、何れも  
 八、何れも  
 九、何れも  
 十、何れも

赤肉と母法 赤白と一掃和  
 成入體身も 産胎内十月  
 身入道體方 至胎外数年  
 蒙父母生育 宜者居父母膝  
 養服以成年 秋亦母懷  
 費乳味粉餅 和菜今山野

教誨教養子 養服平心海  
 漁獲漁身命 為養具身命  
 日次造養業 為養物味  
 多劫地獄 載息不知悉  
 如野馬枯行 為法如意法  
 如野馬換草 面友打と父



五ヶつうがさきも  
 ららぬわねね。ふ  
 りとてふふふふ  
 か。おまてて人  
 めくまふふふふ  
 なるいれわふふ  
 がるのそまふ  
 つかうてふふ  
 くるまふふに世  
 ぶふふふふふ  
 もふふふふふ  
 世の中いふふ  
 ぶふふふふ  
 若の若

天雷震々身 班鳩罵々母  
 靈光吸其命 郭巨為養母  
 栢元清金舍 姜詩志貞婦  
 汲水乃金泉 孟宗笑行中  
 油膏中拔毒 王洋飲叩水  
 世凍上凍更 蔡子求首父

偏傍

清泣用為眼 刑渠煖老母

冠履

嗔食成狀若 董永賣身

虎

後者若邪 揚威念獨母

虎

虎者嗜肉害 顏烏憂老母

入八門

焉名在書理 許叔自化墓

九一

松栢佳地墓 此等令人皆



己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

父母及孝養佛行業攝慈

初心悲感純生死在在考

早一飲涅槃煩惱身不淨

達不此業捨默可默安樂

會者定離若悲可悲六道

生者必滅悲壽命如階階

胡生多死矣身體如芭蕉

隨風如落葉隨風如落葉

全此具途野黃金休休也

只一世財寶定當心定離

文字佛心寶官位龍德也

唯現世名聞政德結矣

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜

己口口十卜



火心火心

牙牛牙牙牛牙

大才大才

沉尾沉尾

足牙足牙

同牙同牙

牙心牙心

虫血虫血

米之米之

羽老羽老

素信素信

林身林身

云谷云谷

赤是赤是

委在而清行 重誓者會

身體不懷向 初利摩口以殿

歡速以學寺 大梵高臺閣

聖牙血力若 須達之千德

聖齒壯者壽 阿若之士寶

聖寶壯者命 月之潔自威

被得珠王使 龍帝投珠力

被打撒平杖 人乞下以施

布粒重托糧 人最不信財

財寶重托隙 者命大窮身

可布粒重托 身是也布粒時

身是隨善心 悲心抱一人



辛辰之正酉

采之平也門素

佐之平也素

負之骨也坑

兩也素也鹿

黃也素也鹿

蓋也素也鹿



甲乙丙丁戊  
己庚辛壬癸

切德如大海  
為已施諸人  
得報如蚊  
子飛沙而後人  
早研黃卷  
層劫經供佛  
業速諸蓮華  
改一旬信  
更力  
延壽補生  
位定得聞法  
法勝于累  
寶上須求佛  
道

中不報四恩  
下編及六道  
共之生以乃  
為債引幼童  
位國果道理  
出內典外典  
見者勿能  
清國者不生  
矣童子善終

第近元年 庚申

年十五 七月

南傳馬町一丁目

山城屋政吉板

源云清公覺見是  
大抄之後



